

2025 年度第 1 四半期 決算説明会 質疑応答（要旨）

- Q1：** 第 1 四半期において、八代工場の回収ボイラートラブルによるマイナス影響はどの程度あったのか。また、復旧の状況について教えてほしい。
- A1：** 第 1 四半期の営業利益への影響額はマイナス 8 億円だった。復旧作業は計画通りに進んでいる。
- Q2：** 第 1 四半期の NDP は、対前年 21 億円の増益となり、収益が大きく回復したが想定通りなのか。また、この利益水準が第 2 四半期以降も継続するのか。
- A2：** 去年は寒波の影響があったが、今年は寒波の影響がなく、操業も安定していた。第 2 四半期は休転があるので収益は落ちるが、その後は現状の収益を維持できると見ている。
- Q3：** 第 1 四半期の営業利益 55 億円は、Opal の収益が改善するなど全体を通して悪い印象はないと感じているが、御社としてはどう捉えているのか。当初見ていた目線で概ね進捗しているのか。
- A3：** 第 1 四半期の進捗に関しては、ほぼ想定どおりと捉えている。紙の輸出は、アジア地域の市況があまり良くなく、計画よりも販売数量が下回ったが、それ以外は想定通りだったと考えている。
- Q4：** Opal では第 1 四半期に労働争議によるストライキがあったが、第 2 四半期以降は設備の稼働状況など労働争議による影響は出ていないのか。
- A4：** 第 2 四半期以降は、労働争議の影響はなく、基本的には計画通り進んでいる。
- Q5：** 段ボール原紙の値上げは、下期から効果が発現してくると思うが、今期の計画にはどの程度織り込んでいるのか。
- A5：** 5 月に公表した営業利益 340 億円の予想には、段ボール原紙の値上げ効果は織り込んでいない。
- Q6：** 印刷用紙や段ボール原紙の輸出は、足元でアジア市況が軟化しているということだが、今後の見通しを教えてほしい。
- A6：** 輸出の市況に関しては、現状の状況が続くと見ている。受注の動向や為替の見通しを加味した上で、しっかりと販売していきたい。

以上